

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズ		
○保護者評価実施期間	令和8年1月22日	～	令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日	～	令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月3日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の状況に寄り添い、きめ細やかな課題分析に基づいた分かりやすい個別支援計画を作成し、支援の現場ではプログラム活動として活かされている。	児発管以外の多職種の職員も書類作成に関わる会議に毎回参加し、意見交換をした上で個別支援計画を完成させている。	月に1度のスタッフミーティングを通じて、管理職だけでなく、個々の現場スタッフからの意見の吸い上げの機会を増やしていくこと。
2	公園遊びや図書館への外出活動や地域体験を通じて、社会経験や地域交流ができる機会が多い。	短時間でもなるべく屋外遊びの時間を作り、地域の公園等で利用児童以外の遊具の譲り合いや空間の共有の機会を設けるようにしている。	電車やバスなど、公共交通機関で出かけるなど、より幅広い地域活動を検討中。
3	体操や創作活動、土曜日や祝日には音楽療法や遠足などの集団活動を複合的に取り入れることによって、社会生活技能や人間関係を調整する力が身に付きやすい。	利用児童様同士の遊びの調整、言葉遣い、譲り合いなど、集団生活や人付き合いの面でのルールやマナーを守って過ごすための声掛けや、仕組み作りを重視している。	スタッフミーティングや研修、専属のPTとの意見交換を通じて、ABA(応用行動分析)やSSTの考え方を取り入れ、専門的観点を増やしていくこと。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会など、保護者同士のコミュニケーションが取りやすくなる機会が少ない。	事業所を通じた1対1の関わりを重視しているため。	今後も検討の機会を設ける。
2	地域住民の方を招待するイベントなど、現状よりもさらに踏み込んだ地域交流は機会が少ない。	近い距離で初対面の方と過ごす過度に緊張してしまう方もおられ、一定の配慮をしているため。	今後も検討の機会を設ける。
3	ペアレントトレーニングや家族参加型のイベントなどの機会が少ない。	事業所を通じた1対1の関わりを重視しているため。	今後も検討の機会を設ける。